

## 巻 頭 言

### — 新学科にむけて —

臨床心理学部長 岡田 康伸

創刊号に引き続き、2 巻目が発行できたことをうれしく思います。この紀要は 13 年度に設立予定の新学科「教育福祉心理学科」の紀要として引き継がれていくものです。新学科は資格関連の専攻すなわち、保育士資格と PSW 資格と小学校教員免許資格が習得出来るコースが集まったものです。臨床心理学部に出来る新学科ですので、他大学にある小学校教員免許制度とは違う特色を持ったものにしようと考えながら作ってきています。すなわち、この底に流れているのは臨床心理学です。臨床心理を学んで、小学校の教員としての知識をもった教員ということになります。すなわち、臨床心理学の基本である「個人のこころ」を大切にしながら、集団と社会などにも開かれた教育をめざしていることです。臨床心理学を学んだ学生が保育士としてあるいは PSW としてあるいは小学校の教員として、個人のこころを大切にす職業人となっていくように教育をうけるのです。たとえば、保育園でも小学校でもその保護者との関係が大きな問題としてあります。モンスターママ（あるいはパパ）をどのように扱えるかが問われています。今日の社会は単に、保育力や教育力だけが求められていないのです。対人関係が重要なのです。社会が複雑になり、さまざまな問題が起こっていますが、基本は個人がしっかりと地に足をつけて、それらに立ち向かえる、それに対応できる力をつけることが大切です。新学科はこのような教育をこころざす学科なのです。

第 2 巻の著者は教員のみならず卒業生を含み、内容も多彩になって、8 編を収録しています。このような人たちが、新学科を盛り上げていくのですが、その要となるのが紀要だと考えています。2012 年度と 2013 年度に新学科の多くの先生方が赴任してこられます。これらの人たちが新学科をリードし、この学科がどのような社会での位置付けと立場を築いていくかが将来の問題としてあります。京都文教大学は社会に開かれた大学をひとつの目標にし、地域との関わりを重視しています。新学科も学内に診療所を持って、学外の病院と関係を持って、デイケアをおこなえるなどの地域医療をも模索したいと考えています。

また、京都文教大学では、新しい学科をつくるのは、他学部との関係や臨床心理学科との関係などさまざまな問題を含みながら、新しい学科として日本の学問分野に何らかの刺激が与えられればという野心をもちつつスタートさせるのです。将来にこの紀要が大いに重宝されていることを願って、巻頭言とします。